

2024年度 実施概要

事業7年目を迎える本年度は、事業の継続により高まりつつある海なし県民の関心をさらに高め、海の課題解決に向けたアクションを起こしてもらうため、自分事としてイメージしやすいよう伝え方を工夫・強化した。自治体や各種団体とのネットワークも築かれ始め、特につなぐりの深い岐阜市教育委員会からは学校教育における海洋教育のカリキュラム導入について相談を受けるまでに。次年度は同市教委をメインに各教育機関との連携を広げるよう動き出している。

オリジナル体験学習イベント

サツキマスから学ぶ海の今と未来 ～シンボルフィッシュとたどる清流長良川の旅～

岐阜県を流れる長良川で幻の魚と言われるほど減少している回遊魚サツキマス。川で生まれ、海に行くのはなぜ？どうして減っているのだろうか。シンボルフィッシュの生涯をたどりながら、山・川・海のつながりと地域の環境問題について考えようと、8月8日～9日に岐阜県各務原市、三重県川越町、愛知県南知多町をフィールドに実施。小学5・6年生が対象で、今年度は広報の見直しにより昨年度より多い147名の応募があり、うち20名が参加した。

1日目は、世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふで、サツキマスの貴重な生体を見学したほか、長良川の河口部に広がる干潟を観察し、サツキマスのえさとなるイカナゴの漁師らによる講義を受講。2日目は、海の魅力を体感するサップに挑戦し、海の課題解決に向けたアクションを起こしてもらえよう訴えるテレビCMを考案、出演した。



アウトプット

- 子どもたちが5つのグループごとに考案・出演した15秒CMを2カ月半にわたって放映。
- ▼ぎふちゃんテレビ
- ▼JR岐阜駅前大型ビジョン
- ▼岐阜バス車内デジタルサイネージ

海の取材動画

- 海に関するニュースやプロジェクト本体の活動などを計10本放送した。(11月末時点)
- 海なし県ならではの視点で、山・川とのつながりから海の課題について考える動画を制作した。

プロジェクト訴求動画

- プロジェクト本体の周知と山場に合わせた連携広報として
- ▼秋の海ごみゼロウィーク
- ▼海のごちそうウィーク
- ▼海と灯台ウィーク
- 訴求動画を各15秒計約250本放送。

これまでの課題と今後の展望

課題 1

海が物理的・心理的に遠く、子どもたちが海を包括的に捉えることが難しい

課題 2

教育者自身の海に関する知識・経験が乏しく、教育現場で語れない

課題 3

海洋教育に関心のある教員がいても異動により各学校に定着しない



「サツキマスという生き物をテーマに興味を引き出すイベントを実施。児童が選んだ海での学びを実現」



「岐阜市教育委員会と築いた強固な連携により海洋教育モデルを構築」



「岐阜市教育委員会からの提案により全国の教員が参加可能な公表会で発表。県内の教育機関に教材配布」